

江南中学校で自衛隊の仕事を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）浜松出張所は9月22日（水）に浜松市立江南中学校で行われた「未来授業」に、広報官の桐林意織3等空曹を講師として派遣した。

これは同校2年生を対象に、社会で活躍している社会人から働くことの楽しさややりがいや聞くことで、これから進路を選択する上で「自分らしく、やりたい自分になる」という気持ちを育てていくことを目的に行われている。

今回は自衛官のほか、歯科医師やアナウンサー、WEBデザイナーなどが講師として参加し、未来の大人たちと懇談した。

生徒と講師の間で名刺交換と自己紹介をした後、自衛隊の仕事の紹介、質疑応答などを行った。

質疑応答では「なぜ自衛隊に入ろうと思ったのですか」「自衛隊に入って大変だったことは何ですか」「飛行機の整備員として心掛けていることは何ですか」など多くの質問が寄せられ、桐林3曹は自身の体験談を交えて生徒たちにわかりやすく説明した。

授業の最後には「これから進路選択に迷うこともあるかもしれませんが、そんな時に今日の未来授業を思い出してみてください。そこで自衛隊に少しでも興味が出たら、また話を聞きに来てください」とPRした。

静岡地本は、今後もこのような取り組みを続け、学校との連携強化を図り、子供たちが未来に向かうための一助になれるように努めていく。



哨戒機に体験搭乗 学生等が海自の航空部隊を研修

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月9日（土）、海上自衛隊下総航空基地（千葉県柏市）で行われた海上自衛隊部隊研修に、静岡県内の大学生と高校生合わせて4人を引率した。

この研修は、自衛隊に興味のある若者に海上自衛隊の基地や部隊の活動を見てもらい、魅力を伝えるために行ったもので、静岡県と群馬県の学生等が参加した。

参加者は海上自衛隊の概要や航空部隊の活動などについて説明を聞いた後、管制塔を見学した。現場の隊員から管制塔での仕事やパイロットとの通信について話を聞くと、興味津々な様子で聞き入っていた。

次に見学した地上救難班では、火災現場や機内から負傷者を救助する活動について、実際に使用する器材を見ながら説明を聞くとともに、救難消防車による放水展示では、迫力ある放水の様子に参加者は圧倒されていた。

最後に今回の最大イベントであるP-130哨戒機の体験搭乗を行った。主翼の前方にプロペラがついた大きな機体に入り込み、参加者は30分ほどのフライトを体験。普段立ち入ることができない機内の様子や隊員の仕事ぶりを間近で見ることが、海上自衛隊航空部隊を肌で感じていた。

研修終了後、参加者は「コックピットにも入ることができ、実際に仕事をしている様子を見ることができた。自分の進路を決めるうえで非常に参考になった」「隊員の方が優しかったので、楽しく学ぶことができた」と感想を話していた。

静岡地本は、今後も自衛隊に対する理解促進と募集基盤の強化に努めていく。



幹部候補生合格者の研修を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は、10月19日（火）と20日（水）の2日間、陸上自衛隊幹部候補生学校（福岡県久留米市）の研修に参加者を引率した。

これは、今年度陸上自衛隊幹部候補生試験合格者を対象に行われたもので、全国から91人が集まった。

初日は、講堂「剛健講堂」で研修の全般説明を受けた後、屋外のグラウンドで、隊員へのほふく前進の教え方を学ぶ「戦闘訓練指導法」の様子や、武装障害走のコースなどを見学した。

午後5時に教育終了ラッパが鳴ると、学生たちが運動服姿で颯爽と現れ、準備体操やグループ走をあちらこちらで行っており、参加者は学校の雰囲気や活気を肌で感じていた。

夕食後には、今年の春入校した学生との懇談が行われた。9人前後のグループに分かれ、参加者2、3人に1人の学生が対応し、学校での教育や苦労したこと、注意点など具体的なアドバイスを伝えた。また、参加者からは授業内容や集団生活、休日の過ごし方、卒業後の勤務などについて、さまざまな質問が寄せられた。

2日目は、同学校長・藤岡史生陸将補が講話を行い、各キャリアの過程での苦労や学んだこと、大切なことなどを言葉巧みに伝えた。

また、学校内の各施設や「戦術教育」「英語」などの授業を見学し、参加者は今後の生活や自分の将来の姿を具体的にイメージできた様子だった。

静岡地本は、引き続き募集・広報活動を実施していく。

